

# I. 平成 18 年度事業報告書

(平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日)

## I. 財団の管理・運営

### 会議の開催

#### 第 23 回理事会 (平成 18 年 6 月 12 日)

選考委員会委員の選出(欠員補充 1 名)について、北原賢三氏が選出され承認されました(任期:平成 18 年 6 月 12 日～20 年 3 月 31 日)。寄附行為第 4 条(5)を「日本語、留学生への資格等の教育施設の設置及び運営等」に一部変更することが承認されました。平成 17 年度事業報告及び収支決算報告が承認されました。

#### 第 23 回評議員会 (平成 18 年 6 月 12 日)

寄附行為第 4 条(5)を「日本語、留学生への資格等の教育施設の設置及び運営等」に一部変更することが承認されました。平成 17 年度事業報告及び収支決算報告が承認されました。

#### 第 24 回理事会 (平成 19 年 3 月 12 日)

評議員の選出(欠員補充 1 名)について、諸田光氏が選出され承認されました(任期:平成 19 年 3 月 13 日～20 年 3 月 31 日)。平成 19 年度事業計画及び収支予算、平成 19 年度奨学生 40 名等が承認されました。

#### 第 24 回評議員会 (平成 19 年 3 月 12 日)

理事の選任(欠員補充 1 名)について、本田一男氏が選任され承認されました(任期:平成 19 年 3 月 13 日～20 年 3 月 31 日)。平成 19 年度事業計画及び収支予算、平成 19 年度奨学生 40 名等が承認されました。

#### 第 14 回選考委員会 (平成 19 年 2 月 19 日)

奨学金対象校から推薦のあった平成 19 年度奨学生候補者 312 名及び現地(大韓民国)奨学生候補者(7 名)について、審査の結果、(財)共立国際交流奨学財団奨学金 15 名(現地(大韓民国)採用 3 名)及び(株)共立メンテナンス奨学基金奨学金 25 名(現地(大韓民国)採用 4 名)の合計 40 名(現地(大韓民国)採用 7 名)を平成 19 年度奨学生候補者として選考しました。

## II. 奨学金支給事業

### 留学生奨学金の支給

平成 17 年度(財)共立国際交流奨学財団奨学金 15 名及び平成 18 年度(財)共立国際交流奨学財団奨学金 15 名、(株)共立メンテナンス奨学基金奨学金 15 名、合計

45 名に平成 18 年 4 月から平成 19 年 3 月まで、奨学金（（財）共立国際交流奨学財団 奨学金 月額 10 万円・期間 2 年間、（株）共立メンテナンス奨学基金奨学金 月額 6 万円・期間 1 年間）を支給しました。

現地奨学金を、ベトナム 6 名、ラオス 7 名 計 13 名に支給しました。

### Ⅲ. 寄附金募金事業

個人 5 名（現地奨学金 5 名）からの寄附金を受け入れました。

### Ⅳ. 国際交流支援事業

#### 1. 研修会の開催

奨学生及び一般学生（留学生、日本人学生）も参加し、相互理解と国際親善・交流を促進するための研修会を実施し、訪問地におけるホームステイ、史跡・歴史的建造物見学、ディスカッション等を通して、日本の文化、歴史、自然についても理解を深めました。

#### <各研修会報告>

##### 第 31 回 奨学生研修会

開 催 地：松本・飛騨高山

開催期間：平成 18 年 6 月 3 日～5 日 2 泊 3 日

参 加 者：（財）共立国際交流奨学財団 2005 年度、2006 年度奨学生 30 名

内 容：松本城、上高地、白川郷訪問

##### 第 32 回 研修会

共 催：（財）共立国際交流奨学財団、（財）北海道国際交流センター

開 催 地：北海道 札幌・函館地域

開催期間：平成 18 年 8 月 20 日～27 日 7 泊 8 日

参 加 者：留学生 35 名

内 容：ファーム体験、ホームステイ

##### 第 33 回 研修会

共 催：（財）共立国際交流奨学財団、（財）オホーツク国際交流センター

開 催 地：北海道 オホーツク地域

開催期間：平成 18 年 8 月 20 日～27 日 7 泊 8 日

参 加 者：留学生 16 名

内 容：ホームステイ、記念植樹祭参加

## 第 34 回 研修会

共 催：(財) 共立国際交流奨学財団、(財) 北海道国際交流センター  
開 催 地：北海道 函館地域  
開催期間：平成 18 年 12 月 6 日～10 日 4 泊 5 日  
参 加 者：30 名（留学生）  
内 容：ホームステイ、学校交流、ガラス作り体験など

## 第 35 回研修会

開 催 地：沖縄（本島・伊江島）  
開催期間：A プラン 平成 19 年 2 月 19 日～2 月 24 日 5 泊 6 日  
          B プラン 平成 19 年 3 月 5 日～3 月 10 日 5 泊 6 日  
参 加 者：A プラン 日本人学生 1 名・留学生 44 名  
          B プラン 日本人学生 1 名・留学生 44 名  
内 容：伊江島にて民泊体験、沖縄観光など

## 2. 国際協力機構（JICA）平成 18 年度青年招へい事業受入

当財団は、国際協力機構より標記事業「中華人民共和国、教育分野、招へい青年 24 名、期間平成 18 年 11 月 28 日～12 月 4 日」の実施協力団体として委託を受け、都内プログラム（早稲田大学訪問、合宿セミナー等）を担当し実施しました。

## V. 生活支援事業

留学生の生活支援を行うため、蕨女子学生会館、武蔵浦和女子学生会館、つつじヶ丘男子学生会館、相模大野学生会館の国際交流会館 4 棟の管理・運営を行いました。

また、大学、専門学校（1 校 3 名以内）に提供する「奨学寮」を札幌地区 1 大学、仙台地区 1 大学、東京地区 5 大学、名古屋地区 1 大学、関西地区 9 大学・1 専門学校に計 56 名分提供しました。

## VI. 教育事業

本年度から、日本語・留学生の資格取得等の教育施設として日新アカデミー日本語学校および東京セラピストアーツを設置し、管理・運営を行いました。

## VII. 出版物

1. 財団紹介のパンフレット『財団法人共立国際交流奨学財団（紹介・情報案内）Vol. 12』情報誌『アジア文流 Vol. 21』、『留学生の就職情報誌「共立・桜」Vol. 9』、『留学生生活 in 東京（韓国語版・中国語版）』を出版し、文部科学省、関係機関、奨学財団、大学、専門学校、日本語学校及び奨学生などに配布しました。

2. 日本留学を志す韓国の人に正確な留学情報を提供するため、日本の生活情報と大学情報を内容とした「2007 年度留学生活 i n 日本」を韓国語で出版し、韓国の大学校、高等学校、マスコミ、『2006 年度 Career Up 日本 Fair in 大韓民国』の参加者及び日本の関係大学等に無料配布しました。また、「2007 年度留学生活 i n 日本」中国語版を出版し、『2006 年度 Career Up 日本 Fair in 上海』の参加者等に無料配布しました。

## VIII. イベント事業

### 1. 「2006 年度キャリアアップ日本フェア in 大韓民国」の開催

当財団、聯合ニュース東北亜センター主催、駐大韓民国日本国大使館公報文化院、韓国・日本留学人聯合會等後援 (株) 共立メンテナンス等協賛の『2006 年度キャリアアップ日本フェア in 大韓民国』を 2006 年 9 月 30 日・10 月 1 日、大韓民国ソウル特別市ロッテホテルを会場として開催しました。

#### <開催事業>

##### ①「第 9 回日本語コミュニケーションコンテスト in 大韓民国」

文部科学省等後援、2006 年 9 月 30 日に日本語能力初級者の予選会・本選会、10 月 1 日に日本語能力上級者の予選会・本選会を実施しました。参加者 242 名、入賞者 23 名。入賞者の 20 名は 2007 年 1 月 10 日～1 月 17 日に実施した賞品旅行「きままな日本旅行 8 日間」に参加し、早稲田大学等訪問、NHK 見学、箱根小旅行等を体験し日本の文化、自然などに触れ日本に対する理解を深めました。

##### ②「2007 年度奨学生現地（大韓民国）選考会」

日本の教育機関（大学院、大学、専門学校、日本語学校）に進学を希望する応募者 125 名に対し、当財団須郷選考委員長、菊川選考委員が日本語による面接を行い、当財団奨学生 3 名、(株) 共立メンテナンス奨学基金奨学生 4 名を 2007 年度奨学生候補者として選考しました。

##### ③「キャリアアップ日本の教育機関紹介」

- ◆ 会場内にブースを設置し、日本の教育機関担当者による留学相談を行いました。  
ブース参加校：国士舘大学、神田外語大学、立命館アジア太平洋大学等 10 校
- ◆ 日本の教育機関資料を会場で無料配布しました。  
資料提供校：東京大学、京都大学、名古屋大学、慶應義塾大学、日本大学、早稲田大学、文化服装学院等 38 校

### 2. 「2006 年度キャリアアップ日本フェア in 上海」の開催

当財団（東京本部・上海委託事務所）主催、在上海日本国総領事館、上海市普陀区教育局等後援、(株) 共立メンテナンス協賛の『2006 年度キャリアアップ日本フェア in

上海』を 2006 年 10 月 5 日・6 日、中華人民共和国上海市甘泉外国語中学校を会場として開催しました。

### <開催事業>

#### ①「第 4 回日本語コミュニケーションコンテスト in 上海」

文部科学省等後援、日本の高等教育機関に留学を希望する学生や、日本語を学んでいる中国の大学生、高校生を対象に実施しました。

参加者 194 名（大学・短期大学生 122 名、高校生 72 名）

入賞者 13 名（大学生 7 名、高校生 6 名）

入賞者 13 名は「きままな日本旅行 8 日間（2007 年 2 月 10 日～17 日）」に参加し、日本電子専門学校等訪問、明治大学博物館や TBS 見学、箱根小旅行を体験し、日本の教育環境、文化などに触れ日本について理解を深めました。

#### ②「キャリアアップ日本の教育機関紹介」

- ◆ 会場内にブースを設置し、日本の教育機関担当者による留学相談を行いました。

ブース参加校：立命館アジア太平洋大学、白鳳女子短期大学、  
東京外語専門学校、日新アカデミー日本語学校の 4 校

- ◆ 日本の教育機関資料を会場で無料配布しました。

資料提供校：東京大学、京都大学、筑波大学、慶應義塾大学、早稲田大学、  
東京製菓学校、文化服装学院等 43 校

### 3. 第 7 回『日本人学生の「アジア体験」コンテスト』の開催

当財団主催、外務省、文部科学省、東京都教育委員会、JICA 地球のひろば、シンガポール大使館、マレーシア大使館、社団法人日本マレーシア協会、産経新聞社後援、(株)共立メンテナンス等協賛の標記コンテストを、2006 年 12 月 17 日共立メンテナンス会議室にて開催しました。

応募者は、高校生 75 名、短大生・大学生 51 名の計 126 名。午前に行われた予選会では、アジア諸国の文化・地理などに関する「アジアクイズ」30 問が出題され、24 名が予選を通過し、午後の本選会に出場しました。

本選会では、スピーチコンテストが行われ、当日与えられたテーマで 3 分間の即興スピーチを行いました。審査員による採点審査の結果、入賞者 11 名（高校生 7 名、大学生 4 名）が選ばれました。

入賞者 11 名は 2007 年 3 月 25 日～31 日に実施した「アジア体験旅行 7 日間（訪問地：シンガポール／マレーシア（ボルネオ島）」に参加し、政府観光局表敬訪問、現地学校訪問と学生との交流、歴史的建造物見学等を通して生の“アジア”を体験し、異文化理解を深めました。